

Jūn zǐ duō hū zāi ?  
君子多乎哉？君子は多<sup>た</sup>ならんや桜美林大学名誉教授 / 孔子学院講師 植田渥雄<sup>うえだ あつお</sup>

春秋時代、ある国の高官が、孔子の弟子の子貢に次のように訊ねたことがあります。

「夫子聖者與？ 何其多能也！(Fū zǐ shèng zhě yú? Hé qí duō néng yě!)(夫子は聖者か。何ぞ其れ多能なるや)」(子罕第九)。あなたの先生の孔子殿は聖人ですか。実に多能でいらっしゃるね、と。

この問いかけには二通りの解釈があります。一つは文字通り誉め言葉。孔子は多方面の能力を持っているから、さぞかし聖人だろう、というもの。もう一つは、聖人とは常に泰然自若としているはずなのに、それにしてはいろいろな雑事に多能だな、というもの。これには少々皮肉が込められています。いずれを取るかでこの文全体の意味が微妙に変わってきますが、ここではひとまず誉め言葉にしておきます。

これを聞いた子貢は答えます。「固天縦之、將聖。又多能也！(Gù tiān zòng zhī。 Jiāng shèng。 Yòu duō néng yě!)(固に天之を縦にす。將ど聖ならん。又た多能なり)。実に天は、この宇宙の全てを自由にお決めになります。その天意をお受けになった孔子様は、ほぼ聖人と言って間違いありません。その上にまた多能でいらっしゃるのです、と。

後世の中国の人たちにとって、孔子は紛れもなく聖人でした。現代でも孔子は世界の四大聖人の一人に数えられています。しかし、孔子在世中はどうだったのでしょうか。

孔子にとって聖者とか聖人というものは、あくまで過去に実在したと伝えられる理想の支配者のことでした。従って自分のことを聖人と称するわけがありません。しかし弟子たちにとっては聖人か、あるいはそれに近い存在であったと思われます。

一方、当時の人たちにとって孔子は、思想、学術、

政治等はもちろんのこと、こまごまとした雑事に至るまで、多方面に優れた能力を持つ、有能人でした。そしてこういう有能人こそが、混迷した当時の社会に求められていました。しかし道徳上の理想があまりに高すぎて、この能力を使いこなす権力者は一人もいませんでした。あるいはこれが聖人の宿命を物語るものかもしれません。

それはともかくとして、この高官も、多能であることが理想の人物像に近いと考えていたようです。「聖者」とはこれを強調したものと思われま。しかし子貢にとっては、聖人と多能は別物です。天から最高の稟性<sup>ひんせい</sup>と地位を与えられた人が聖人で、多能とは技量の面で優れた能力を持った人ということでした。多能だから聖人というのではない。孔子の偉大さはその両方を兼ね備えた点に在る、ということです。

この話を聞いた孔子は子貢に言いました。「吾少也賤、故多能鄙事。君子多乎哉？ 不多也！(Wú shào yě jiàn。 Gù duō néng bǐ shì。 Jūn zǐ duō hū zāi? Bù duō yě!)(吾少きより賤し。故に鄙事に多能なり。君子は多ならんや。多ならざるなり)。私は幼いころ貧乏だったから、生きるためにやむを得ず諸事に多能になっただけのこと。君子たる者、多能である必要はない、と。君子とは指導者としての人格を備えた人のことです。多能であることを自他ともに認める子貢に対して、聖人だの多能だのと言う前に、世の指導者としての人格を磨きなさいと、暗に諭しているのです。

ちなみに孔子が貧しい母子家庭の育ちであったことは、よく知られた話です。

(わんりい「中国語で読む漢詩の会」講師)